

(19) 日本国特許庁(JP)

## (12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-57226

(P2006-57226A)

(43) 公開日 平成18年3月2日(2006.3.2)

(51) Int.C1.

A 41 D 3/04

(2006.01)

F 1

A 41 D 3/04

B

テーマコード(参考)

3 B 0 3 1

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願2004-270534 (P2004-270534)

(22) 出願日

平成16年8月20日 (2004.8.20)

(71) 出願人 504334566

中村 隆司

静岡県三島市梅名57の7番地

(72) 発明者 中村 隆司

静岡県三島市梅名57番地の7

F ターム(参考) 3B031 AA14 AB02 AB11 AB12 AB15  
AC12 AD05

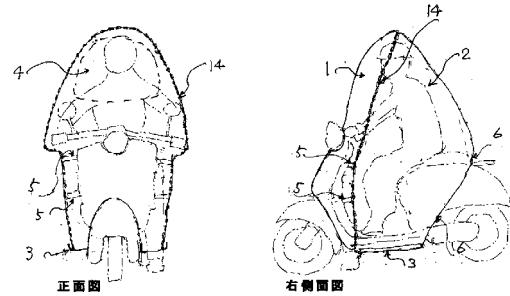
(54) 【発明の名称】防雨カバー

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】持ち運びが便利であり、簡単にセットでき、不測の雨にも対処できる、雨天時スクーター、バイク、自転車等に利用する防雨カバーを提供する。

【解決手段】前面カバーと後部シートに分ける。前面カバーはハンドル下の本体に固定する。雨のときに後部シートを取り出し、前面カバーにチャックまたは接合用具で取り付ける。後部シートは軟質のビニール材等で作り、折りたたみができるようにする。もう一案は上体のカバーと下体のカバーに分け、ハンドルと身体を覆うカバーを作る。カバーを複数に分割してサドルまたは、腰掛の部分にセットし、上下カバーを扇子や人力車の幌のように円周状に広げたり折り込めたりすることができる構造にしたのが特徴。着地する足のカバー裾部分はU字型に折り返し、ズボンの裾、靴等が濡れるのを防ぐ。

【選択図】 図2



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

カバーを自動車のように着地する足の部分を除き、スクーター、自転車、バイク等のハンドル部を含み人体をカバーで覆うようし、雨具と人体との間に空間をできるようにしたもの。さらに、ただ覆うだけのカバーだけでなく、必要なときにすぐに使えるようにするためカバーを前面カバーと後部シートに分ける。前面カバーの大きさは、上は頭部を覆う高さ、下は地上から靴が濡れない高さにし、前面カバーをハンドル下の本体に固定する。雨のときに後部シートを取り出し、前面カバーにチャックまたは接合用具で幌のように取り付ける。シートの後は荷台等の金具に止める。後部シートは軟質のビニールなどの合成樹脂か、防水用の材料を使い、折りたたんでしまえるようにする。雨が後部シートを伝い流れ、その雨の滴りで靴等が濡れるのを防止するため、着地する足にかかる部分の裾口をU字型にして、その水を逃して靴などにからないようにしたのも特徴である。風に対する抵抗があるので流線型にする。風の状態に応じてすぐに取り外すことができる。

10

**【請求項 2】**

カバーを自動車のように着地する足の部分を除き、スクーター、自転車、バイク等のハンドル部を含み人体をカバーで覆うようし、雨具と人体との間に空間をできるようにしたもの。さらに、ただ覆うだけのカバーだけでなく、必要なときにすぐに使えるようにするため、そのカバーを何等分かに分割してサドルまたは、バイクの腰掛部分にセットし、人力車の幌や扇子のように円周状に広げたり、折り込めたりすることができる構造を持つのが特徴である。カバーを腰掛部に固定できる金具と、上下に開けるための回転用、支点金具を用意し、未使用時は荷台側にあり込んで装着しているので必要に応じて随时使用できる。また、必要でないときには外すことができる。雨がカバーを伝い流れ、その雨の滴りで靴等が濡れるのを防止するため、着地する足にかかる部分のカバーの裾口をU字型にして、その水を逃して靴などにからないようにしたのも特徴である。風に対する抵抗があるので流線型にする。風の状態に応じてすぐに取り外すことができる。

20

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本考案は、雨天時スクーター、バイク、自転車等に利用する防雨カバーに関する。

30

**【背景技術】****【0002】**

従来のバイク、スクーター、自転車等の雨具は、一体型の着衣であったり、上下の着衣であったりしている。着替え等が面倒で、特に雨具が身体に密着するため、その雨の濡れた感じが伝わり、不快感を覚える。また、従来の防雨カバーはカバーと雨具ではカバーと雨具を伝い、雨滴が滴り落ちるため、どうしてもズボン等の裾、靴等が濡れやすい。また、通常のカバーにした場合持ち運びや装着が不便である。

30

**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

しかし、これでは雨具が身体に密着するため、その雨で濡れた感じが身体に伝わり、不快を感じる。また、防雨カバー、雨具ではカバーと雨具を伝い雨滴が滴り落ちたりするため、どうしてもズボン等の裾、靴等が濡れやすい。また、持ち運びが便利であること、簡単にセットでき、不測の雨にも対処できることが課題。

40

**【課題を解決するための手段】****【0004】**

請求項1では、雨具の不快感をなくすには身体と雨具との間に多少空間を設けるとその不快感は除去される。そのためハンドルと身体を覆うカバーを考える。しかし、ただ覆うだけのカバーだと簡単に持ち運びできず、必要なときにすぐに使えない。必要なときにすぐに使えるようにするためカバーを前面カバーと後部シートに分ける。普段は図1のように前面カバーをハンドル下の本体に固定する。雨のときに後部シートを取り出し、図2の

50

ように前面カバーにチャックまたは接合用具で幌のように取り付ける。後部シートは塩ビ等の軟質合成樹脂材、防水用の材料で作り、折りたためるようにすると、荷台、腰掛け下にしまえ、雨天時に隨時使うことができる。

#### 【0005】

請求項2では、雨具の不快感をなくすには身体と雨具との間に多少空間を設けるとその不快感は除去される。そのためハンドルと身体を覆うカバーを考える。しかし、ただ覆うだけのカバーだと簡単に持ち運びできず、必要なときにすぐに使えない。そこでカバーを持ち運びができ、また雨天時に簡単に使えるようするためカバーを何等分かに分割し、サドルまたは、バイクの腰掛け部分にカバーをセットし、人力車の幌や扇子のように円周状に広げたり折りめたりすることで解決できる。折り込みカバーはバンドまたは金具により腰掛け部分に固定し、使用しないときは荷台の方向に折り込み、広がらないようにバンドなどにより止めてスクーター等に装着すると持ち運びができ、隨時に使用できる。小雨などでは背中にかかる部分を開け、扇形のまま、前後に移動できるようすれば、乗り降り時が便利になる。ジャバラは上体とハンドル部分を覆うものと、腰から下、足の部分を囲うようにしたものを作り分けて作るが、回転軸は同一でもできる。

#### 【0006】

前方の視界が見渡せるようフロントガラスに当たる部分のカバーを高度の透明な合成樹脂にしてもよい。足が着地するカバーの裾部分をU字型に折り返すことにより、雨具に伝わり落ちる雨水を前または後に導き、ズボンの裾、靴等が濡れるのを防ぐようにできる。風に対する抵抗が大きいので強い風があるときは折りたたむ、折り込むことで、今までどおりになる。

#### 【発明の効果】

#### 【0007】

よって、本発明のカバーにより、従来の雨具の使用時の不快感は解消できる。請求項1では前面カバーをセットし、後部シートを取り付け、請求項2では折り込み式にすることにより、持ち運びが簡単で、隨時使用できる。着地部のカバーの裾部分をU字とするので、カバーに伝わり落ちる雨水を前または後に導き、ズボンの裾、靴等が濡れるのを防ぐことができる。

#### 【発明を実施するための最良の形態】

#### 【0008】

請求項1では、雨具の不快感をなくすには身体と雨具との間に多少空間を設けるとその不快感は除去される。そのためハンドルと身体を覆うカバーを考える。しかし、ただ覆うだけのカバーだと簡単に持ち運びできず、必要なときにすぐに使えない。必要なときにすぐに使えるようにするためカバーを前面カバーと後部シートに分ける。普段は前面カバーをハンドル下の本体に固定する。雨のときに後部シートを取り出し、前面カバーにチャックまたは接合用具で取り付ける。シート後部を安定させるため荷台等の金具で止めるようすればよい。後部シートは軟質のビニールなどの合成樹脂か、防水材料で作ると、荷台等に折りたたんでしまっておける。必要なとき後部シートを取り付けるだけで随时使用することができ、前部カバーは塩ビなどの透明合成樹脂材を利用、開発すれば、強度、転倒時の破損の危険性など十分回避でき本発明を実施可能とする。

#### 【0009】

請求項2において、雨具の不快感をなくすには身体と雨具との間に多少空間を設けるとその不快感は除去される。そのためハンドルと身体を覆うカバーを考える。しかし、ただ覆うだけのカバーだと簡単に持ち運びできず、必要なときすぐに使えない。そこでカバーを持ち運びができ、また雨天時に簡単に使えるようにするため、カバーを何等分かに分割してサドルまたは、バイクの腰掛け部分にセット、人力車の幌や扇子のように円周状に広げたり折りめたりする構造にする。それぞれのジャバラ部分は広げたときにラチエット等を使うことにより、カバーどうし固定でき、必要な大きさのカバーに構成すれば、図7のように背中にかかる部分を開け、扇形のまま、前後に移動できるので、乗り降り時の不便が解消する。折り込みカバーはバンドまたは金具により腰掛け部分に固定することは技術的

には可能である。使用しないときは荷台の方向に折り込んでバンドなどで止めることで持ち運びでき必要なとき随時使用することができる。乗るときは人力車の幌のようにジャバラを引っ張り広げるが、そのままだと風などで煽られる。そのため引っ張った先を車体前部、ハンドルの下の固定金具を用意することで止めることができる。ジャバラは上体とハンドル部分を覆うものと、腰から下、足の部分を囲うようにしたものに分けて作るが、足の部分を覆うカバーはサイドからの雨をカバーし、先端部は前からの雨をカバーできるようにするので回転軸は同一か、もしくは半径に応じて支点をずらし、別にすることでそれぞれ覆うことができる。このようにいろいろな対策があり技術的にも既存のもので十分解決でき実施可能である。

## 【00010】

前方の視界が見渡せるようにするにはフロントガラスに当たる部分のカバーを高度の透明な合成樹脂を利用すればよい。足が着地するカバーの裾の部分をU字型に折り返すことにより、雨具に伝わり落ちる雨水を前または後に導き、ズボンの裾、靴等が濡れるのを防ぐことができる。カバー材料はビニール、ポリエチレン、ポリプロピレンなどの合成樹脂材を使うと転倒しても破損しない、十分な強度もあり、頻繁な開閉に耐え、複雑な形が成型できる。ともに風に対する抵抗が大きいので強い風があるときはたためる、折り込めるので、危険は回避できる。ある程度の風に十分使えるように流線型に設計することで、風の大きさ、雨の量などその場に適した使い方ができるので実施可能である。

## 【産業上の利用可能性】

## 【00011】

本発明による防雨カバーは、工業的に量産する事が可能であるため、産業上の利用可能性を有する。

## 【図面の簡単な説明】

## 【00012】

【図1】 本発明に係る、請求項1の防雨カバーのうち、スクーターを例に、前面カバーを固定した図。

【図2】 本発明に係る、請求項1の防雨カバーのうち、スクーターを例に、前面カバーに後部シートをチャック等でとめた図（正面図と右側面図）。

【図3】 本発明に係る、請求項1の防雨カバーのうち、自転車を例に、前面カバーに後部シートをチャック等でとめた図（正面図と右側面図）。

【図4】 本発明に係る、請求項2の防雨カバーのうち、スクーターを例に、折り込み式カバーを腰掛部に固定したものを等角図で図示したもの。

【図5】 本発明に係る、請求項2の防雨カバーのうち、スクーターを例に、折り込み式カバーを半開きにした状態を等角図で図示したもの。

【図6】 本発明に係る、請求項2の防雨カバーのうち、スクーターを例に、折り込み式カバーを雨天時に使用した状態を等角図で図示したもの。

【図7】 本発明に係る、防雨カバーのうち、スクーターを例に、乗り降りを楽にするため、折り込み式カバーの背中部を使わない状態をキャビネット図で図示したもの。

【図8】 本発明に係る、請求項2の防雨カバーのうち、スクーターを例に、乗り降りを楽にするため、折り込み式カバーの背中部を使わないで後ろに倒した状態をキャビネット図で図示したもの。

## 【符号の説明】

## 【00013】

- 1 請求項1の前面カバー（本体に固定）
- 2 請求項1の後部シート
- 3 流れてきた水が濡れないようU字型にした部分
- 4 必要なときに透明度の高い材質のウィンドウ
- 5 請求項1の前面カバー取り付け金具
- 6 請求項1の後部シート取り付け金具
- 7 請求項2の上部カバー

10

20

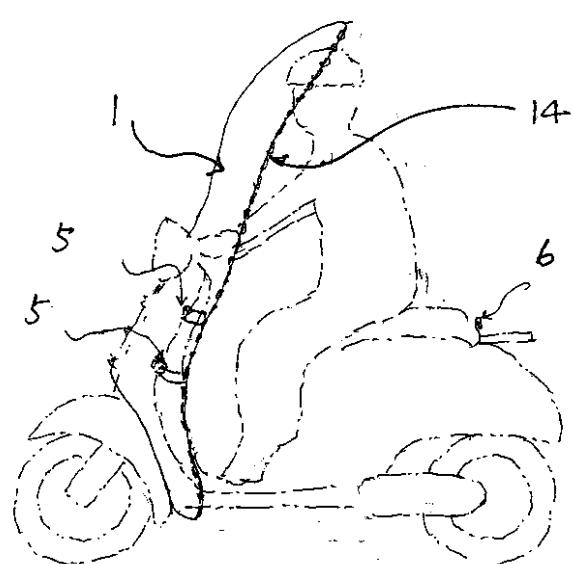
30

40

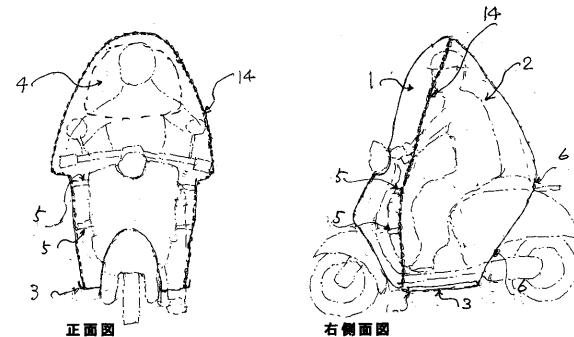
50

- 8 請求項 2 の下部カバー  
 9 請求項 2 上部カバーの背中部分用  
 10 請求項 2 回転軸  
 11 請求項 2 折り込みカバーを腰掛け部分に固定する金具  
 12 請求項 2 上部カバー止め金具  
 13 請求項 2 下部カバー止め金具  
 14 請求項 1 の前面カバーと後部シートを接合するチャック類

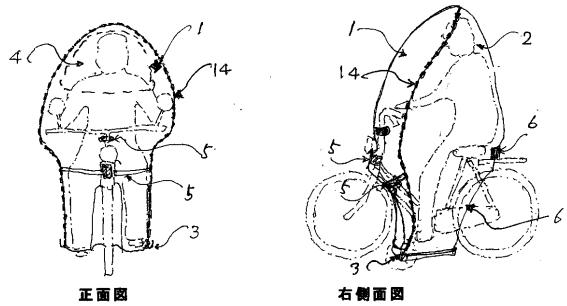
【図 1】



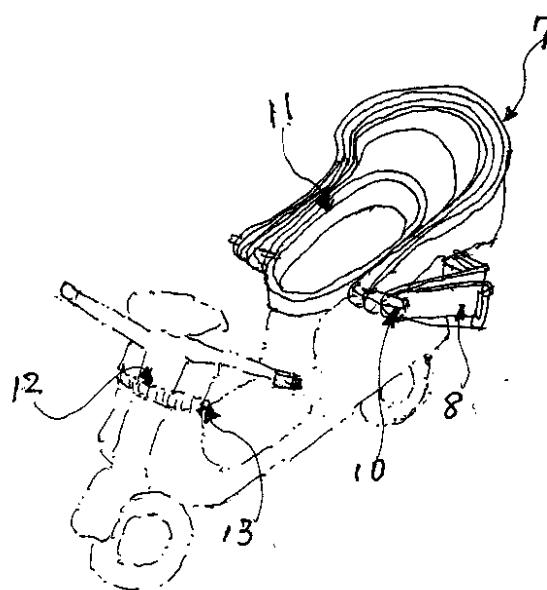
【図 2】



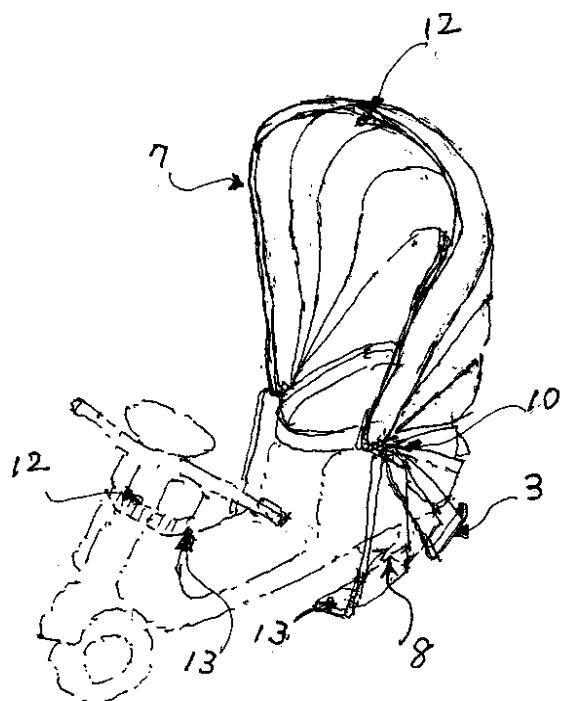
【図 3】



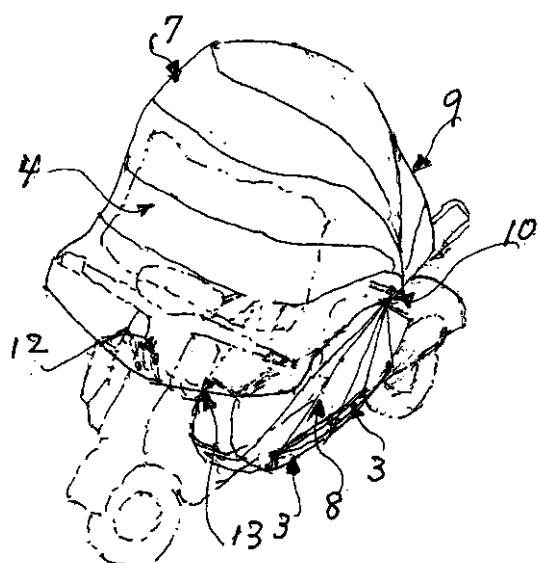
【図4】



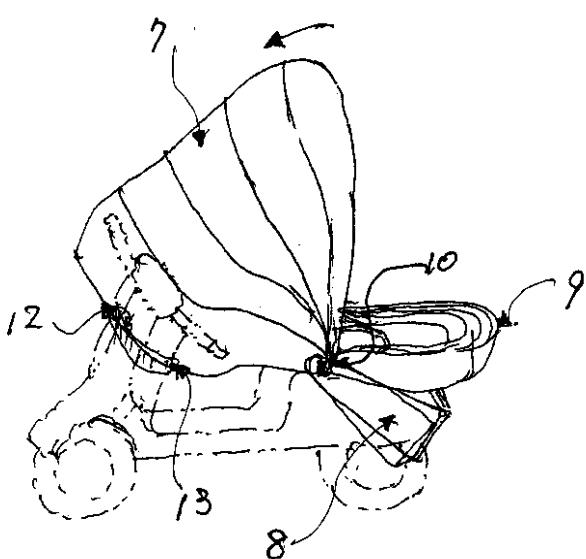
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

